



Mwadzuka bwanji ! (マズカバンジー:こんにちは) Zikomo 通信第二報です。今回はマラウイ国について書きました。今回は、マラウイの医療と病院について書こうと思います。私は今、首都リロングウェにあるカムズ中央病院で研修を受けています。私の派遣先はカロンガという地域の別の病院なのですが、青年海外協力隊、看護師として活動するにあたり、マラウイでも看護師免許を取る必要があります、そのために1か月間決められた病院で研修を受けます。

○マラウイの医療○

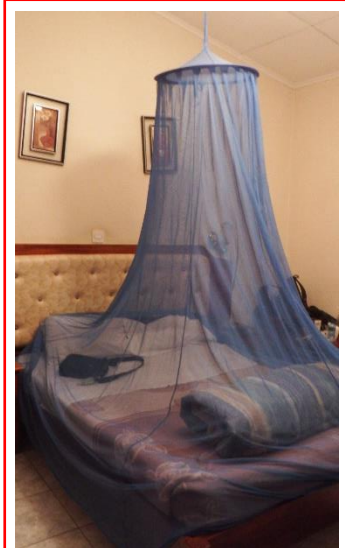
まずは医療費のことから。日本は医療費は3割負担ですが(高齢者を除く)、マラウイではなんと、**無料**です！マラウイ人だけでなく、外国人も無料で治療が受けられます。



…しかし、医療水準は、教育レベルが低いことに加え、医薬品や医療機器の絶対的な不足により、日本と同レベルのものは到底期待できません。医薬品や医療機器は他国からの援助、寄付に頼っているのが現状です。日本では総合病院には必ずと言っていいほどあるMRIという機械、これはマラウイには1台しかありません。また、医師や看護師の不足も深刻で、人口に対する医師の割合は世界最低水準、看護師の定員充足率も25%しかありません(2013年)。医師の不足を補うためにClinical Officer(準医師)やMedical Assistant(医療助手)などの医師免許を持たない有資格者が実際の医療を支えています。準医師は基礎的なお腹の手術や帝王切開を行うことができ、医療助手は、手術はせずに薬の処方や点滴の治療を行います。県病院や、クリニック程度の病院には医者はほとんどいないため、準医師が診断、治療を行います。

○マラウイに多い病気○

- ・ **マラリア** : 蚊を媒介して感染します。重症化しやすく、特に蚊が増える雨季には多くの方がこの病気で亡くなります。
- ・ **狂犬病** : 狂犬病ウイルスに感染した動物(犬、猫、コウモリ等)から感染します。ウイルスは唾液に含まれます。致死率はほぼ100%という恐ろしい病気です。
- ・ **住血吸虫** : マラウイ湖等、水辺で感染します。皮膚から入り、血尿が出たり、腎臓に障害を及ぼします。
- ・ **HIV/AIDs** : アフリカ全土で高い感染率を有しています。
- ・ **感染症** : コレラ、赤痢、腸チフス、アメーバー赤痢、A型肝炎、寄生虫などの感染症が常に発生しています。生水、氷、生野菜等加熱されていない食品は危険です。



蚊帳(かや) マラリア予防のために寝るときは必ずこの中で寝ます

○カムズ中央病院○

病院の敷地はかなり広く、入院病棟の建物は4階建てです。外来、一般病棟、小児病棟、手術室、集中治療室もあります。

集中治療室(HDU)→



病室は、基本的に大部屋のみ。1部屋に10～30床ほどのベッドが並びます。また、部屋の中だけではスペースが足りず、バルコニーにもベッドが並んでいます。(左の写真)

病院でも患者の身の回りの世話は家族がします。体を拭いたり、着替えの手伝いをしたり、トイレや検査に付き添ったりと、家族は朝から夕方まで患者につきっきりで世話をします。病院の敷地内には、患者への差し入れや付き添いの家族の食事を作ったり、洗濯をしたりするスペースもあります。

病院食→

シマやご飯(米)が出ます。



←日本の救急車

マラウイでは至る所に中古の日本車が走っています。町中を走っている車の9割以上が日本車です。

○おまけ○

普段私たちが使っているマラウイの移動手段を紹介します。

・ Mini バス

町中の移動から、都市間の移動まで、マラウイ全土を走行。200MKw(約 30 円)～

日本車のハイエース等のバンを改造したものが多く、20 人以上が乗ります。満席になるまで出発しません。



・ タクシー

町中の移動から、都市間の移動まで、マラウイ全土を走行。1000MKw(140 円)～

赤色のナンバーのタクシーは営業許可をもらっている正規のタクシー。

・ 三輪タクシー(トゥクトゥク)

各町中を走行。200MKw～



・ 自転車タクシー(チャリマト)

各町中を走行。ただの自転車の二人乗り。

100MKw(約 15 円)～

・ Big バス

都市間を走行。写真は Big バスの中でも、かなり良いグレードのバス。立ち席もあります。



どの交通手段を使っても待ち時間やトラブルが多く、なかなかスムーズに行きたい場所にたどり着けません。

次回は私の任地カロンガについて書きたいと思います。それではまた。

Zikomo. Tionana !! (ありがとう。またね!!)